

第二回

知名オーディオの熱中。

私にとって、沖縄の魅力の一つは、音全般であり、とりわけ音楽である。街を歩いていても、どこからか音が聞こえてくる。心を揺らすメロディがある。今回訪問したのは、そんな音の達人であった。

知名オーディオの知名宏師さんを最初にお見かけた時、なんだか懐かしい気がした。その風貌が温かい、というだけのことではない。もっと深いところに、「懐かしさ」の理由があったのである。それは、知名さんが、一つのこと熱中して時を忘れるタイプの人だということである。

知名さんのつくるオーディオ・システムの音質が良いことは、日本中どころか全世界にとどろいている。私も、何回かそのスピーカーで音楽を聴いたことがあるが、魂をゆさぶられる思いがした。その発明は、「ニュートン・キャンセラー」を始めとして高く評価されている。

なぜそんな技術開発が可能なのかと言えば、つまり、知名さんが熱中して時を忘れるタイプの人だからである。脳科学者という職業柄、そのような意味での「変人」には、嗅覚が働く。そんな知名さんの長年の熱中人生が自然につくりあげた風貌を、私は懐かしいと感じるのである。

その熱中変人の「アジト」というべきか、知名さんの事務所を訪ねるのは本当に楽しい。大きなスピーカーが置いてあり、その独特のフォルムを見るだけで、「あつ、知名オーディオだ」とわかる。

知名さんのような人は、熱中の「ボケツト」のようなものをたくさん持っている。そのことには、前からうすうす感じていたが、今回、知名さんの底知れなさを、再び思い知らされることになった。

事務所になにやら飛行機のようなかたちをしたものがたくさん置かれていて、中には注目。なんと、知名さんは今、模型の飛行機に凝っているのだという。しかも本当に飛ぶ！

原理はジェット機と同じである。強力なファンが回って気流を起こし、猛スピードで飛んでいく。時速250キロだか、とにかく信じられないスピードが出る。そんな模型飛行機を、知名さんは、空き地に行っては飛ばして遊んでいるのだという。

「野望があるのですよ。ふふふ。」

知名さんは、ジェット機の模型を見せ、今度の週末にはこれを飛ばすのだと言って、楽しそうに笑った。

工夫をして、飛ばして、また改良する。卓越したスピーカーを生み出した、少年の遊び心。知名さんのそばにいて、純粹なる熱中のテーマ音楽が響いてくるような気がする。



写真 = 武安弘 撮

茂木健一郎（もぎけんいちろう）脳科学者。1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現在に至る。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」（感覚の持つ質感）をキーワードとして脳と心の関係を研究すると共に、文藝評論、美術評論などにも取り組んでいる。2005年、『脳と妄想』で第四回小林秀雄賞を受賞。2009年、『今、ここからすべての場所へ』で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。2010年3月まで、NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』キャスター。著書は『脳とクオリア』（日経サイエンス社）、「心を生み出す脳のシステム」（NHK出版）など多数。